

科目名				授業の種類	授業担当者
子どもと表現A				講義	倉科深陽
学年	単位	時間数	授業回数	履修時期	選択・必修
1	2	30	15	前期	幼児：選択必修 保育士：選択
〔授業の目的・ねらい〕					
<p>幼児の表現する姿やその発達を理解し、表現の様々な知識や技能を学ぶことを通して、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。</p>					
〔授業全体の内容と概要〕					
<p>領域「表現」の指導に関する幼児の表現の姿やその発達、及びそれを促す要因を知り、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などについて実践的に学ぶ。乳幼児期の表現活動を支援するための知識・技能・表現力を身に付ける。</p>					
〔受講上の注意事項〕					
<ul style="list-style-type: none"> ・次回までの課題を消化し、授業に臨むこと。 ・提出物は期限内に必ず提出すること。 					
〔使用テキスト〕			〔評価基準〕		
<p>・実践しながら学ぶ子どもの音楽表現(保育出版社)・幼児のための音楽教育(教育芸術社)・幼児の歌110曲集(エー・ティー・エス)・その他楽譜、プリント等</p>			<p>・全授業を通じて、学習の様子をまとめる30% ・試験50% ・授業の課題(レポート、提出物等)20%</p>		
〔授業の日程と各回のテーマ・授業内容〕					
回	項目		授業内容		
1	開講にあたって・事前研修課題		表現とは何か 領域「表現」のねらい及び内容を理解する。		
2	乳幼児の表現発達の理解		乳幼児の発達について理解し、幼児の表現に気づく。		
3	自然と感覚的表現		身近にある自然やその特徴に触れ、感じる・見る・聴く・楽しむことを身体を通して感じ取る。		
4	素材を生かした表現		諸感覚を通じて触れた身近な素材の特徴を生かし、幼児の音楽表現活動を展開する。		
5	身近な遊びと表現		生活や身近な遊びで心が動いたことなどをもとに、音楽表現活動を展開する。		
6	身の周りの音・声・楽器による音楽遊び①		身の周りの音・自分や友だちの声などの面白さを感じる。また、声や音による応答的な音楽表現を即興的に行う。		
7	身の周りの音・声・楽器による音楽遊び②		楽器等を用いて応答的な音楽表現を即興的に行う。		
8	身の周りの音・声・楽器による音楽遊び③		合奏等のアンサンブルを通して、音の重なり合う美しさを体験する。		
9	音遊びの展開		幼児の遊びに即したリズム遊びの展開例を考える。		
10	歌うことを中心とした表現活動		教科書を用いて子どもの歌を探る		
11	豊かな表現のために①		季節や行事の歌を用いて、言葉の意味や情景が伝わるような表現豊かな歌唱表現を身に付ける。		
12	豊かな表現のために②		子どもの歌を用いて、表現豊かな歌唱表現を身に付ける。		
13	イメージを音にする		心情や情景などを、楽器や声や身の回りの音を使い、協働して曲を創作する。		
14	まとめ		学習のまとめを発表する。		
15	定期試験				

実務教員としての経歴	
実務経験と授業の関連	